

鹿ノ台川柳教室 九月度句会

九月十六日(月) 鹿ノ台西集会所

弔吟 故林勝利さんのご冥福を祈り

苳のある川柳残し天空へ
 柳俳の道ひたすらに本格派
 凶らずも偲偲の友逝き恨みとこしえ
 教え乞う願い叶わずお別れに
 手取り足取りご恩忘れることはない
 飄々と心に宿る勝利翁
 蘊蓄に耳傾けた日は来ない
 さよならは再見と書き南無阿弥陀
 お上手とうまくのせられついできた
 知と情と楽しい語り忘れない
 生前の厚誼を感謝冥福を
 友偲ぶ辛く切ない句会の日
 高野山句座の真中に想う勝利
 勝利さんいつもの席にいる気配
 ありし日の君の笑顔に又涙
 ミスターマルチ存分にいついつまでも
 芸才を天に望まれ早立ちす
 薄墨に品格という秋の雲

席題「引く」

奥村義雄選

戻りたい遠いあの日の恋を引く
 国引きで出雲大きく土地だけは
 歳とつて引くに引かれぬ土俵ぎわ
 幹事さん当たりを引いて場がしらけ
 幕引きに感謝の言葉携える
 秋祭り山車の引き手は皆笑顔
 今思うわたしの人生大当たり
 引き際のみごとな人は惜しまれる
 押して引く妻の技にはかなわない
 百引いて百を忘れるのが辞書だ
 引き際は命果てる日と独裁者
 引き際で決まる男の価値器量
 秀カーテンを引いて自分をやっとなす
 軸引算が得意で困る浪費癖

宿題「奈良」(連記)

山神春代選

柿食えばあの俳人が偲ばれる
 リニア線びつくらぼんの八咫鳥

種類増え柿の葉寿司に舌つづみ

暑い夏されど賑わう鹿と寺

千年の大仏に触れいやされる

平城京今も変わらざわが都

肩張らず神仏近しわが大和

近過ぎて世界遺産をないがしろ

大仏を見てお泊りは京浪速

奈良の鹿神の使いで人の上

外語絵馬辞書はないかと春日神

奈良の鹿自衛の角も許されず

京みやび神戸ハイカラ奈良の野暮

まほろばと言つて逃げ水が揺らめく

燈花会の奈良公園に別世界

秀奈良暮色塔と仏に抱かれて

軸いにしえより奈良の都にある誇り

宿題「憧れる」(互選)

②うつし世はやはりお金の二千万

風を切り原チャリに乗り黄泉の国

森に住む公民権からの自由

憧れのスターめつきり白髪ふえ

ブロマイド貼っていました僕の部屋

憧れを追うことやめたしやぼん玉

まだ見ぬ地行つてみたいと夢を馳せ

佳き女の生き方上手よく笑う

③憧れる今こそ主役グレーヘア

あのお宅シヨパンがいつも流れてた

結婚は憧れすてる免罪符

憧れた苦い二十の片想い

憧れをすてこの自適わるくない

④憧れをライバルにする鬼と棲む

熟年の歌手出演はラジオだけ

⑤憧れた都会の隅でうらぶれる

お金には憧れはなし猫だから

⑥憧れた富士に登ればゴミの山

紅い灯も赤信号に見える歳

⑦憧れの高値の花も枯れすすき

⑪秀憧れた自由な日々も大欠伸

登美

宏樹

えいじ

幸男

哲子

乃り子

アキラ

充

よし尚

義雄

広子

正清

よう子

春代

幸男

ちさと

登美

正清

登美

充

哲子

登美

宏樹

哲子

千楽

よし尚

春代

よし尚

春代

よし尚

よう子

千楽

義雄

幸男

アキラ

義雄

よう子

アキラ

松本柊子選

余力少し残し迎える喜寿の秋
 種をまき早く芽が出る親心

宿題自由吟

千楽
ちさと

乃り子
充

未来を語り老人会で浮いている 義雄
 どどんと祭り太鼓のあねご肌 正清
 女なら蒸発という夢を持つ ちさと
 捨てるもの山ほどあるよまず私 えいじ
 秋の空遠距離介護なお遠い 哲子
 プライドを捨ててブレーキかけていく 乃り子
 お陰様やつと覚えて輪にとける アキラ
 老いてなお今しか出来ぬこともある よう子
 秀ありがとう叫べば木霊よく響く よう子
 軸私の洗たく秋にどつぷりと 柎子

鹿ノ台川柳教室会員の新聞投句 掲載された句
 (八月十九日～九月十五日各紙掲載分)

朝日新聞 田中新一選
 九月四日 題「勘違い」

親の目は盗めるようなものでない アキラ
 九月十一日 題「解く」
 ユニークな発想究めゆく孤独 アキラ

毎日新聞 山田順啓選
 八月二十二日 題「指輪」

終身刑言い渡されたクスリ指 乃り子
 八月二十九日 題「リズム」
 日本の四季のリズムが崩れゆく アキラ
 秒針のリズムに命刻まれる よう子

九月五日 題「包む」
 プレゼント想いのたけのラッピング アキラ

読売新聞 阪本高士選
 八月二十五日 題「流れる」

せせらぎに核の芥の夢を見る 正清
 九月一日 題「近い」
 近いけど近似値というオリの中 正清

九月十五日 題「満たす」
 投影をして満ち足りる十三夜 正清

奈良新聞 居谷真理子選
 八月二十一日 題「やつと」

ありがとう妻に照れずに言える古希 アキラ
 再起へと勇気の種が芽生えだす よう子

ダイエット挙句の果てに諦める 幸男
 結婚式肩の荷おろす淋しさも 春代
 日が射してやつと理想の色になる 正清
 八月二十八日 題「飲み物」
 喉元の言葉を溶かす中ジョッキ アキラ
 亡父曰く敗戦の味コカ・コーラ 英二
 九月四日 題「カード」
 ドナーカード善意の人と共に生き よう子
 診察券にポイント付く日待ち望む アキラ
 九月十一日 題「望む」
 文集に書いた望みはほろ苦い 英二
 明日という望み持たせて日が沈む よう子
 買いません高くつきます売り言葉 幸男
 金メダル夢いっぱい皮算用 アキラ
 赤ちゃんの望み二親の交換 正清
 望み叶えば長生きお金美しさ 春代

奈良新聞 自由吟

九月十二日 米田恭昌選
 終戦日はるか異郷の空仰ぐ よう子
 隠しても寝言でばれる夫婦仲 幸男
 やつとこさ猛暑凌いで生き延びる アキラ
 骨壺の中にとろ火が入り込む 正清

* 橋正清、前田幸男、勝部乃り子、山神春代、
 各氏は短歌俳句でも活躍

次回 十月二十一日、十二時十五分開場、西集会所
 宿題は「靴」、「うめく」、「自由吟」各二句

* 席題 義雄選 十二時三十分お題発表
 * 「靴」(連記) 哲子選
 * 「うめく」(互選)
 * 自由吟(共選) 充選 広子選
 出句× 宿題・席題とも十三時

自治連合会公認クラブ。生駒番傘川柳会のご指導
 を得て、日頃の生活を、喜怒哀楽を、五七五に
 句会のご見学、ご入会大歓迎、会費一ヶ月百円

問合せ 原 広子(79・0061)
 野々村詮(090・6961・1292)